

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090700010		
法人名	株式会社 ケアネット		
事業所名	グループホームすざか		
所在地	長野県須坂市大字小山字蒔田2518-1		
自己評価作成日	平成21年8月10日	評価結果市町村受理日	平成22年2月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090700010&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マズネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた環境の中にあり、事業所の「The Carenet Way (行動の目標)」に「その人らしく、その人らしい、その人らしさを支えるケアであること」、「明るく元気にコミュニケーションをはかること」、「地域社会との共存をはかること」を目指すことを理念として掲げて、入居者が「生き生きと楽しく、明るく、笑いのたえない、共に助け合い暮らす」ことを支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入浴は2日に1回利用でき、清潔感の保持や安眠に繋がり、週2~3回の事業所が多い中で優れた介護が実現できている。流しそうめん・柏もち・梅干し作り・白うり漬け・菖蒲湯・バラ湯など季節の移り変わりと共に暮らす、これまでの生活の継続を大切にしている。住宅地であり、なかなか近隣との結びつきが難しい中、地域の文化祭への参加・小学校の運動会参加・地域の獅子舞の招待・体験学習の受け入れなど地域と積極的に繋がろうとする、ひたむきな努力をしている。年2回の管理者と職員の個人面談で上司に思いを伝えやすいという職員の言葉など、職場内のコミュニケーションが良く取れていることが感じられた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1階ユニット)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ホーム内に理念を掲げている。</p> <p>全職員が理念を共有する取り組みが弱い。</p>	<p>利用者への介護の基本姿勢、職員の在り方、地域との繋がりを謳いあげた事業所独自の理念を作っている。理念の共有化の取り組みの弱さは、理念理解のための強化月間を設けるなどの努力をしながら、ケアの中で理念を実現するよう取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>伝統行事(獅子舞等)を招いたり、地域の文化祭に参加したり、地元小学校の運動会の参観等している。しかし、まだ自治会の一員としての活動はしていない。</p>	<p>日常的な地域との繋がりは少ないが、自治会への加入、諸行事への参加、体験学習の受け入れなど地域の中で、共に暮らして行きたいという前向きな姿勢が伺えた。運営推進会議等で地域との交流について地域住民の知恵を借りることも一考かと思われる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>中学校、高校の体験学習の場として、受入れ体制を整えている。</p> <p>しかし、地域向けの認知症の勉強会等はまだ企画できていない。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>状況報告をし、グループホームの取り組み等を理解いただいている。委員からの意見を参考にサービス向上に反映させている。</p>	<p>年6回開催し、委員も家族・地域・行政と各方面からの意見を取り入れられる体制となっており、双方向的な会議となっている。2か月に1度の開催のため、議題に苦慮する場合もあることを伺った。</p>	<p>事業所の課題(地域とのつながり・防災対策等)を解決するには地域を代表する方の参加が有効であるので地区の代表者を委員に加えることを期待します。議題については、外部から見た事業所の姿(職員の言動・清掃状況等)を評価してもらうことを加えるなど多様性に富んだ会議となるよう工夫することを望みます。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>日常的には、認定更新時の訪問調査の日程を調整する等のみであり、サービス向上に向けた取り組みは継続的に行われていない。</p>	<p>事業所としての課題を市に持ち上げる内容がこれまでなかったこともあり、十分な連携はとれていない。市は保険者であり、地域福祉の推進役であるので、事業所の現場を理解してもらうような働きかけを、事業所が積極的に行うことが望ましい。</p>	

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない状態となった場合は、ご家族の同意を得て、必要最小限の拘束を行っている。	過去に身体拘束をご家族の同意を得て行った経緯はあるが、現在は「身体拘束は行わない。」という基本姿勢で取り組んでいる。面会の少ない利用者で、外に出たがる人がいるが、見守りや連携プレーで、玄関には鍵を掛けることなく対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会等に参加し、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な取り組みは行っていないが、研修会等に参加し、全職員に周知していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の方に事前に見学や入居者との交流をし、安心いただくようにしている。 なお、契約に際しては、契約内容の確認とご家族の意向や希望を聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中から意見、要望等を汲み取るよう心がけている。上手く言葉での表現の出来ない入居者も、日頃の態度、表情等から汲み取るようにしている。その情報については、ケア会議にて共有し、改善に努めている。	会話や日頃の態度・表情から利用者の思いを汲み取るようにしている。年2回の家族会、面会時、意見箱により、ご家族の意見を聞くように努めている。意見等は少ないが、漠然とした内容より、テーマ(行事や食事の内容・職員の言動など)を決めて意見を求めるなど、意見を言いやすい工夫をすることも一考かと思われる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員ケア会議を実施し、意見や提案をサービス向上に役立てている。	日々のミーティング、毎月の職員・ケア会議、年2回の管理者との個人面談、職員の研修の機会を多く設けるなど、職員が発言し、学べる環境を整えている。上司とのコミュニケーションがよくとれていることが感じられた。	

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回「職員・ケア会議」を開き、運営についての説明を行い、職員の意見を聞き、皆の総意の基にホームづくりを目指している。また、年2回個人面接を行い意見を聞き、個々の職員の状況を把握する機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、年1回の研修参加を目標としている。事業所全体としては、年2回の職員研修を実施している。また、職員個人の外部研修希望については、内容を検討し、希望に添えるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの情報交換や訪問を不定期に行っている。また、長野圏域グループホームネットワーク化の集まりに参加し、情報交換、交流を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みの段階より、本人の現在の状況を聞き、見学してもらうようにしている。本人の不安混乱を想定し、慣れただけのように配慮し、本人の気持ちを大切にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聴き、入居に至るまでの家族の困りごと、心配ごと、求めている事と本人とのギャップを把握しながら、信頼関係づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の初期段階から全て入居申し込みとして受けるのではなく、「今、何が必要か」を相談の中で確認しながら「今、必要なサービス」につなげるようにしている。		

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の経験や知識が生かせるよう、日常生活の中で、教えて貰う場面を多くもてるようにしている。共に過ごす時には支援する側、される側という意識を持たず、和める場面づくりをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を折々に報告し、職員の想いを伝え、共に支えていく気持ちを共感できるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰る。墓参り、親戚を尋ねるなど家族に委ねている。馴染みの人の面会等は時折あるが、此方から出かけていく支援はまだ行えていない。	利用者の希望により、墓参り・自宅・親戚に行ったり、訪問理容があったり、美容院へ行ったりと、これまでの暮らしの継続を支援している。ご家族の協力で実現できている面もあるので、運営推進会議等で提案して、ボランティアの協力を得ながら臨機応変に対応することも一考かと思われる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係はこちらが作為的に築くものではないので、個々の相性による場面が多いので、職員は人間関係を把握していることが大事と考えている。お茶、食事は職員が話題を提供し、場が和めるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入所された方がいるが、特に家族からの相談等は今のところないが、家族からの相談があれば大切に考えていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から把握できるよう努めている。意志表示の困難な人には、家族からの情報を得るようにしている。一人ひとりの想いを大切に、カンファレンスで検討し反映されている。	利用者から教えてもらう場面を持ったり、楽しみごとを把握したりして、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう取り組んでいる。生き生きと楽しく、共に助け合い暮らす場所作りを目標に努力している。	

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での情報収集が不足しており、生活歴の把握は断片的なものになっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や生活のリズムを把握しながらのケアに心がけ、一日の流れを本人の姿や言葉を通し記録を取るよう心がける。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心になりアセスメントをし、職員全員でカンファレンスを行い、計画作成担当者がケアプランを作成している。出来るだけ本人や家族の思い、意見を反映させるようにしている。	利用者やご家族の意見や思いを聞いて、介護計画を作成し、設定期間ごとに見直しは行われていたが、アセスメント・プランの実施状況・評価の記録が不十分であった。	各種の記録(基本情報・プランの実施・評価等)は、職員間の情報の共有・ご家族への報告・職員の努力や成果を目に見える形にするために、確実に残していくことを期待します。特に出発点である利用者の基本情報・暮らしや心身の情報は、センター方式などを活用して十分に把握することを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録、バイタル、食事・服薬・排泄等の記録をしている。情報の共有、確認をし、勤務につくようにし、確認サインをするようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族のケースや救急受診時等事業所で対応している。ケースごとに柔軟な対応を行うことができるよう体制や工夫を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花見外出、季節行事(やしょうまづくり等)の際、民生委員やボランティアの協力を得ていきたい。		

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医の継続を勧め、受診は基本的には家族の付き添いで対応してもらっている。家族が不可能なときは、職員が代行し行っている。また、往診をしてもらうこともある。かかりつけ医のない人には当事業所の協力医を紹介している。</p>	<p>これまで馴染み、利用してきたかかりつけ医の受診をご家族の協力を得て継続している。緊急時には協力医療機関を利用している。ご家族の負担は大きい継続した医療を受けられ、利用者の安心に繋がっている。</p>
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の配置をしていないが、隣接するショートステイの看護師に相談し、助言を受けている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期退院に向け、病院関係者(地域医療連携室など)と情報交換をし、退院後の生活がスムーズに再開できるように援助を行った。</p>	
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在、対象となる入居者は居なく、話し合い、方針は立てられていない。</p>	<p>十分な医療対応ができない。1ヶ月以上の入院は退居となる。すでに介護老人福祉施設等に申し込みがなされているなどの理由で、重度化や終末期に該当する利用者が居ないため、事業所としての方針等はない。ただ今後は、重度化や終末期対応の希望は確実にあるので、時間を掛けて検討することを望みます。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が救急救命講習を受講するように努める。応急手当は看護師による講習会を行った。</p>	
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、施設全体の避難訓練を入居者も一緒に実施している。</p>	<p>年間2回、昼間想定(通報・避難・消火)は行われている。消火器、通報装置、ガス漏れ・漏電報知機、電磁調理器の使用など、安全のための設備は整っていた。ただ、夜間一人になることへの職員から不安な声があった。</p> <p>夜間一人で9名の命を守りきることは困難も多いので、身体が自然に動くように繰り返し訓練を行うことが大切である。夜間を想定して、併設事業所との連携を視野に入れながら、イメージトレーニングを中心に全職員(勤務も考慮して)が繰り返し訓練することを期待します。さらに運営推進会議等を通じて、近隣住民の協力を得ることを望みます。</p>

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシー保護について、常に意識し、個人情報の取り扱いについて教育を行っている。	理念にもある「その人らしさを支えるケア」の実践に向けて、個人情報の保護も含めて、利用者の尊厳を保持する取り組みをしている。利用者個人の記録は面倒でも鍵の掛かる棚に保管することを望みます。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に「聴く」ことを大切に考えている。上手く表現できない人には、選択してもらえるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、生活の支援していくよう配慮している。職員の都合を優先せず、入居者の生活を優先できるケアを目指すよう心掛けている。その日の天候を見ながらの散歩、畑仕事、トランプ、花札等楽しみをみつけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの選択は基本的に本人の意向でできている。選択困難な場合は、職員が見守りや必要に応じた支援を行っている。現在、訪問理容を利用している。美容院の利用も本人の意思を取り入れるようにしていきたい。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つで、メニューを考えること、準備すること、食卓を囲むこと、片付けに参加すること等において喜びや楽しみを持ってもらっている。	食材の準備・片付け・洗い物等利用者の得意分野を活かしながら、分担して利用者と職員が一緒になって行っている。献立は職員が作り、併設事業所の栄養士の指導を受けている。食材は畑で採れた野菜も活用し、利用者と共に近くのマーケットに買い出しにも行く。流しそうめんなど季節を食で感じられるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し、栄養の偏りやカロリー過多がないか管理栄養士の指導を受けている。食事の他お茶の時間をとり、水分摂取に心掛けている。		

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清潔は三食毎に声かけをしているが、入居者の習慣的なこともあり、口腔ケアが一日一回位となってしまっている。義歯も洗浄液につけるのみの方もおり、全員の口腔状態を把握しての支援が出来ていない		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の居室にトイレが設置しており、一人ひとりのプライバシーが守られ、各自の排泄パターンにあわせて行われている。トイレ誘導、パット交換のタイミングを逃さないよう、ケアカンファレンスし、援助を行っている。	排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮として各居室にトイレがあり、さらに、排泄パターンの把握ができていますので、排泄への自立支援が充分に出来ています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による心身の変化を理解し、排泄状況を把握し、スムーズな排便のための援助を行っている。また、食事、運動等にも配慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間を決めて行われている。ハード面から事故防止を考慮し、日中の入浴としている。身体的、精神的に入浴に困難を抱えている人には、時間をかけて納得してもらったり、二人介助で安心して安全に入浴出来るよう援助を行っている。	1日おきに(土、日曜日も含めて)午後、入浴が実施され、全利用者が週に3~4回入浴している。重度者には二人対応し、風呂嫌いな利用者にはシャワー浴対応することもある。菖蒲湯やバラ湯など楽しみや季節を味わえる工夫もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつかみ、日中の活動を促し、夜間の安眠に結びつくようにしている。各自の身体状況に合わせた休息を勧めている。不安があり、眠れない時は、寄り添い、話を聴いたり、お茶を飲んだりし、安眠出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、「服薬説明書」を管理し、全職員がわかるようにして、薬の目的、副作用、用法、要領を理解し確実な服用に努めている。病状の変化には記録、報告を行っている。		

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、楽しみごとを把握し、役割や楽しみごととなり、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう準備し、感謝の言葉を添えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況やその日の天候を見ながら、散歩、外出を行っている。ホームの庭や隣接グラウンドへの散歩は日常的に行っている。	気分転換や五感の刺激のため、車の通行の少ない道路やグラウンドへ日常的な散歩を行っている。お弁当を持っての花見、ドライブを兼ねた外食、生活必需品の買い物外出、理美容院への外出等も行っている。少しずつ足腰が弱くなっているがウッドデッキの活用、周辺の散策など、常に季節の風や匂いを感じてもらえる支援を続けられることを望みます。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の現金は家族の承知のもと自己管理している。食材料の購入の際は支払いを行ってもらっている。外出の際はお金を使う機会を設けているが、実際には使うことにためらっていることが多い。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話をかける機会はほとんどなく、家族や知人からの電話は歓迎している。季節の手紙は本人の意思を尊重し無理強いせず、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、テラスに向かい、開放的である。庭の畑では季節折々の野菜、花を育て楽しめている。ソファやリクライニングチェアは語り合える場として利用されている。	居間兼食堂は台所と同じフロアーであり、調理の音や匂いが感じられ、東側は大きな吹き出し窓、外にはウッドデッキがあり、庭には畑(ネギ・トマト・キュウリ等)があり、地域で暮らす味わいが漂っていた。季節感を意識的に取り入れた菖蒲湯・柏もち・流しそうめん・梅干し作り・白うり漬けなど工夫を凝らした暮らしが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にあるソファやリクライニングチェアは思い思いに人と語り合える場として利用されている。テラスのベンチではお茶や日向ぼっこをしたりして過ごす楽しみがある。		

ケアネットグループホームすざか外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具を持ち込み、備え付けの家具も使用される方が多い。家具、ベッドは好みに配置し、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	ベッド・テレビ・チェスト・トイレ・冷暖房と事業所で備えたものが多いが、配置を自由に変えたりして、快適で清潔な居室になっていた。馴染みの物として写真・時計・飾り物・物入れなど利用者が居心地よく過ごせる工夫もされていた。その人らしく暮らしている様子が伺えた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーとなっており、随所に手すりが設けてある。トイレは各居室に設置してあり、安全に自立した生活が支援できるようにしてある。		